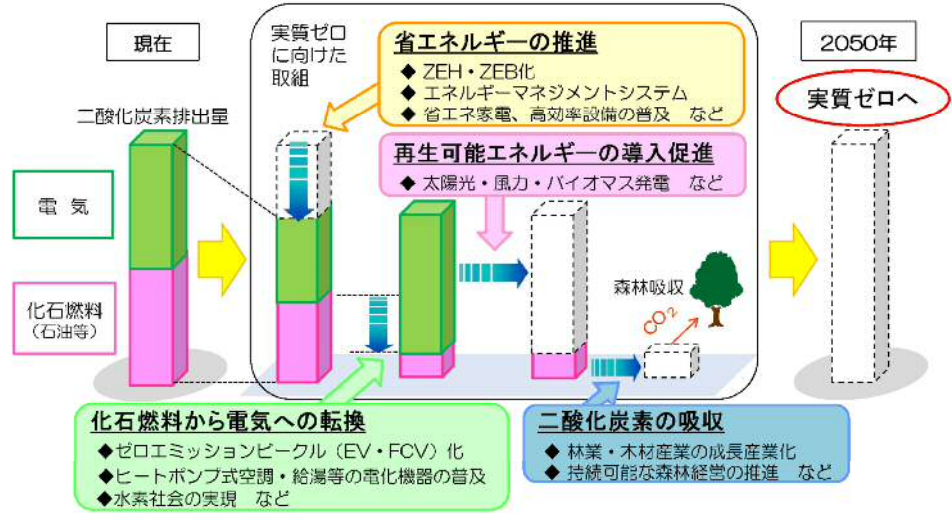


▶▶ 2050年長期ビジョン

2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ、脱炭素社会の実現を目指します。



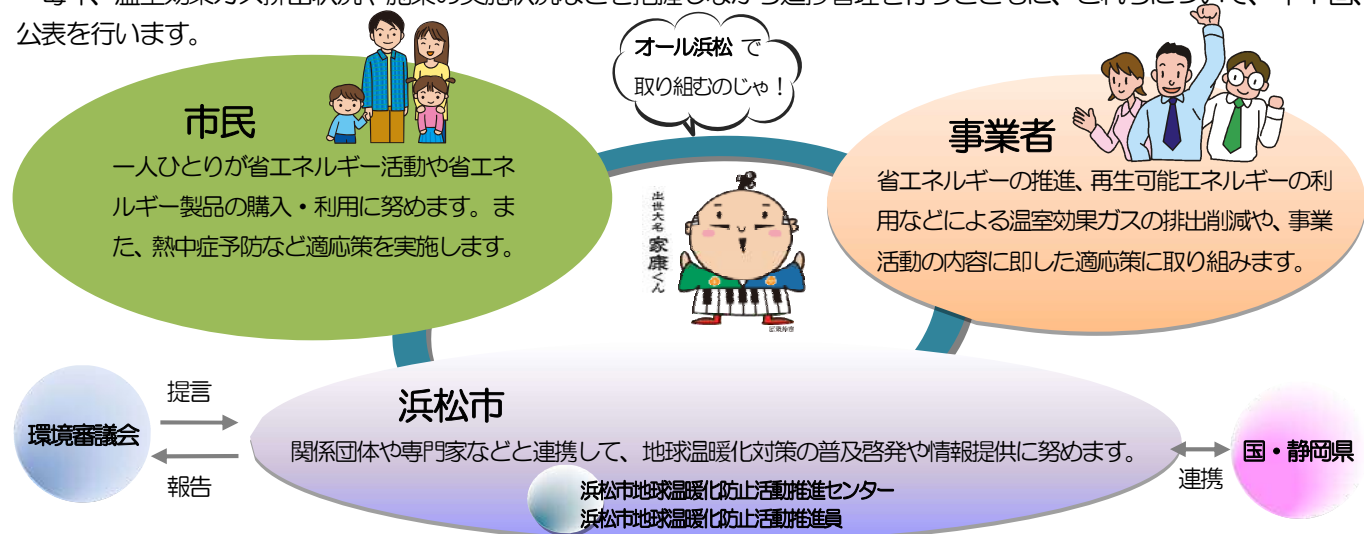
▶▶ 適応策

今までに排出された温室効果ガスの影響から、これからも世界の平均気温は上昇します。温室効果ガスの削減と同時に、今後現れるかもしれない極端な高温や豪雨などによる影響への対応を行うことを「適応策」といいます。

分野	懸念される影響 (例)	本市が取り組む適応策 (例)
農業・林業・水産業	ミカンの着色遅延、浮皮の発生、品質低下、貯蔵性低下、栽培適地の北上	培養技術による新たな農作物や高温耐性品種・システムの導入と普及
水環境・水資源	無降雨・少雨による水量低下	取水量の調整
自然生態系	ニホンシカ・イノシシの分布拡大による農業被害	大規模防護柵の設置推進、実証試験などの実施
自然災害・沿岸域	土砂災害発生件数の増加 浸水被害の増加	浜松市地域防災計画、ハザードマップ、区版避難行動計画の定期的な見直しや周知
健康	熱中症患者の増加、熱中症搬送者数の増加	熱中症予防の普及啓発、市民向け予防講座の開催
市民生活	ヒートアイランド現象の発生	市街地における暑熱環境改善に資する緑地の確保

▶▶ 計画の推進体制

毎年、温室効果ガス排出状況や施策の実施状況などを把握しながら進捗管理を行うとともに、これらについて、年1回、公表を行います。



地球温暖化対策 実行計画 (区域施策編)



▶▶ 地球温暖化の原因と影響

●地球温暖化って何?

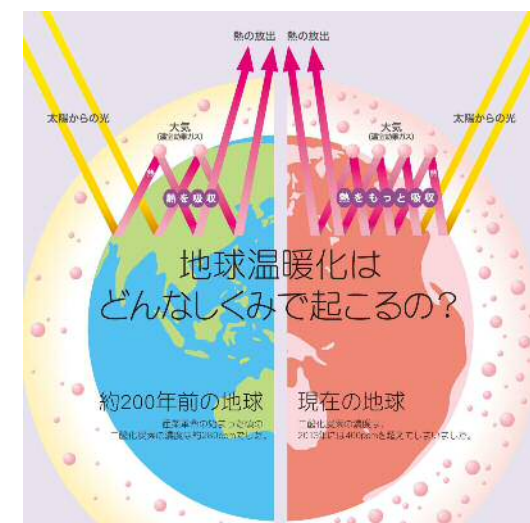
二酸化炭素などの温室効果ガスが大量に排出されることによって、地球の気温が上昇しています。今のままの暮らしを続けると、今世紀末には最大4.8℃上昇すると予測されています。その原因は、私たち「人間の活動」といわれています。

●地球の気温が上がると何が問題なの?

気温の上昇によって、健康面に悪影響を及ぼすほか、暴風雨や川の氾濫、生態系被害、食糧問題などへのリスクが高まります。



地球温暖化のしくみ及び気温上昇によるリスクのイラスト出典:
全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト(<https://www.jccca.org/>)より



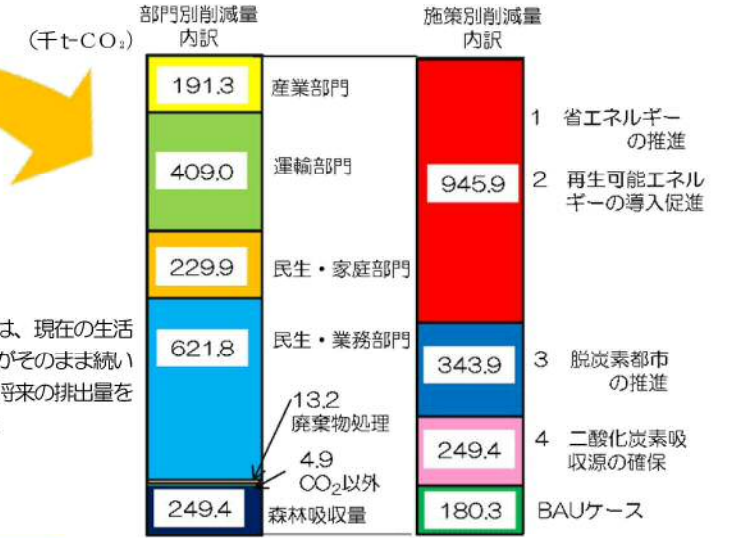
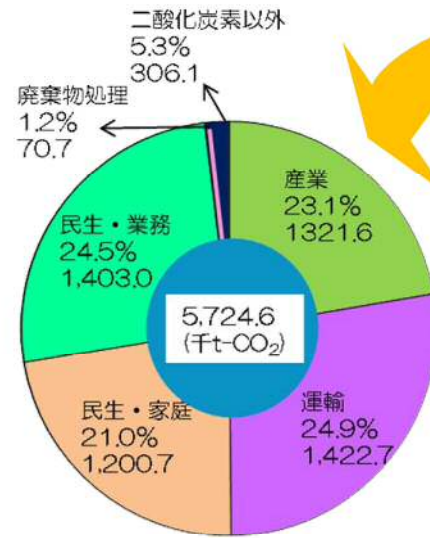
▶▶ 浜松市の温室効果ガスの現状と削減目標

● 浜松市の現状は？

2013年度の排出量で最も多いのは運輸部門です。その大半は自動車利用により排出されています。

次に、民生・業務部門、産業部門、民生・家庭部門と続きますが、全国と比較すると、運輸部門や民生・家庭部門の排出量の占める割合が大きくなっています。

温室効果ガスは、日常生活や事業活動など、あらゆるところから排出されています。市民、事業者、市が、あらゆる場面で、それぞれに求められる役割を果たしながら、「オール浜松」で地球温暖化対策に取り組んでいきましょう。



削減目標：2030年度は2013年度から30%削減

30%削減のための施策と削減量

基本施策1	基本施策2	基本施策3	基本施策4																								
<h3>省エネルギーの推進</h3> <p>945.9 千 t-CO₂ 削減※</p>	<h3>再生可能エネルギーの導入促進</h3> <p>※削減目標量は基本施策1に含む</p>	<h3>脱炭素都市の推進</h3> <p>343.9 千 t-CO₂ 削減</p>	<h3>二酸化炭素吸収源の確保</h3> <p>249.4 千 t-CO₂ 削減</p>																								
<p>LED照明の導入を推進します</p> <p>COOL CHOICE を推進します</p> <p>ZEHなど脱炭素住宅の普及を推進します</p> <p>ZEHでの生活</p> <p>ZEHでの生活は省エネ・創エネをしつつ、夏は涼しく、冬は暖かい快適な空間を実現することができます。</p> <p>再生可能エネルギーを活用します</p>	<p>公共交通機関の利用を推進します</p> <p>徒歩や自転車を利用します</p> <p>EV・FCVなど次世代自動車を導入します</p>	<p>FSC®認証材を維持、拡大します</p> <p>地産材の地産地消・地産外荷を推進します</p>	<p>注) FSC®認証とは、適正に管理された森林に付される認証制度のことです。</p>																								
<p>エネルギー使用の合理化に加え、エネルギー消費効率の高い機器や脱炭素住宅の普及を図るなど、徹底した省エネルギー対策に取り組めます。</p>	<p>太陽光やバイオマスなど再生可能エネルギーの利用や、エネルギーを効率良く使う新しい技術・製品の開発により、エネルギーの地産地消を目指します。</p>	<p>公共交通の利用や次世代自動車の普及促進、エネルギー消費量の少ない建築物やインフラなどの整備により、まち全体で脱炭素化を進め、脱炭素都市を目指します。</p>	<p>森林の適切な管理、森林資源の利用促進、林業の活性化など森林の育成と利用を両輪として、二酸化炭素吸収源を確保します。</p>																								
<p>【指標と目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(現状)</th> <th>(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民1人1日あたりのエネルギー使用量を減らします。(電力使用量換算)</td> <td>8.1</td> <td>→ 6.9 (kWh/人・日)</td> </tr> <tr> <td>従業員1人1日あたりのエネルギー使用量を減らします。(電力使用量換算)</td> <td>14.8</td> <td>→ 9.8 (kWh/人・日)</td> </tr> <tr> <td>市民1人1日あたりのごみ排出量を減らします。</td> <td>898</td> <td>→ 843 (g/人・日)</td> </tr> </tbody> </table>		(現状)	(目標)	市民1人1日あたりのエネルギー使用量を減らします。(電力使用量換算)	8.1	→ 6.9 (kWh/人・日)	従業員1人1日あたりのエネルギー使用量を減らします。(電力使用量換算)	14.8	→ 9.8 (kWh/人・日)	市民1人1日あたりのごみ排出量を減らします。	898	→ 843 (g/人・日)	<p>【指標と目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(現状)</th> <th>(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民1人ひとりが車を賢く使い、ガソリン使用量を減らします。</td> <td>2.1</td> <td>→ 1.6 (L/人・日)</td> </tr> </tbody> </table>		(現状)	(目標)	市民1人ひとりが車を賢く使い、ガソリン使用量を減らします。	2.1	→ 1.6 (L/人・日)	<p>【指標と目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(現状)</th> <th>(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>森林認証取得面積を拡大します。</td> <td>42,174</td> <td>→ 54,000 (ha)</td> </tr> </tbody> </table>		(現状)	(目標)	森林認証取得面積を拡大します。	42,174	→ 54,000 (ha)	
	(現状)	(目標)																									
市民1人1日あたりのエネルギー使用量を減らします。(電力使用量換算)	8.1	→ 6.9 (kWh/人・日)																									
従業員1人1日あたりのエネルギー使用量を減らします。(電力使用量換算)	14.8	→ 9.8 (kWh/人・日)																									
市民1人1日あたりのごみ排出量を減らします。	898	→ 843 (g/人・日)																									
	(現状)	(目標)																									
市民1人ひとりが車を賢く使い、ガソリン使用量を減らします。	2.1	→ 1.6 (L/人・日)																									
	(現状)	(目標)																									
森林認証取得面積を拡大します。	42,174	→ 54,000 (ha)																									